

平成27年度第1回三重県医療審議会健やか親子推進部会における主な意見

1 「健やか親子いきいきプランみえ（第2次）」の進捗状況について

- ・特定不妊治療においては、高齢になった場合の妊孕能の低下、高齢出産のリスクについて知識を広報することに必要性を感じる。
- ・市町ごとに人口規模、社会資源の状況など条件が異なる中、乳幼児期、学童期、思春期から妊娠・出産に至るライフステージをうまくサポートできるかが課題である。

2 「乳幼児死亡」について

- ・ハイリスク家庭への支援については社会的背景への援助をする必要がある。
- ・歯はその家庭の生活の質を反映しやすい。気づきがあった場合は、市町保健師に相談するようにしたい。
- ・三重県産婦人科医会は学校、企業に若い世代に対するライフプラン教育の講師を引き受けているが、安全な出産をするための適正年齢を教えている。こういった知識の普及が後期死産の対策においても必要であると考えます。
- ・低体重出生児の対策についてはその後の保育や成長発達のリスクにつながると聞いている。医師会、歯科医師会、行政のネットワーク、連携をもって対応する必要があるため、県も専門的、広域的視点から総合調整をはかられたい。
- ・以前に比べ、早産児は増加しているが、それには性感染症が大きく影響している。ライフプラン教育の中に性教育も含めてやっていく必要がある。教育委員会でも取り組みをお願いしたい。
- ・胎盤早期剥離の対策は三重県産婦人科医会で胎動チェックカードの普及に取り組んでいるが、もっと県内の市町にも積極的に取り組んでもらいたい。
- ・後期死産は胎盤早期剥離だけでなく、臍帯因子も多い。自覚症状があればすぐに受診するよう啓発していく必要がある。